

農地法による許可申請受付〆切は毎月10日です

第39号

昭和53年創刊号から通算第124号

農政

ちちぶ

令和2年1月1日発行
秩父市農業委員会
秩父市熊木町8番15号
電話 0494(25)5231
責任者 桑 東 男



令和元年度 第十五回

農業に関する図画・作文コンクール

図画の部 最優秀賞

花の木小学校 三年 山口花歩さん

「二人でとったトウモロコシ」



主な内容

- 農業委員長挨拶 2
- 令和元年度第15回農業に関する図画・作文コンクール 3～5
- 農業委員会・農政課・情報政策課からのお知らせ 6
- 朝の光、耕地の話題 7
- 農を詠む、知々夫の夜ばなし、編集後記 8

年頭にあたり



秩父市農業委員会

会長 桑 東 男

令和の年頭にあたり、謹んで新春の慶びを申し上げるとともに、皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます。

年頭に際し、「災害の無い平和な年で有る様に」と考え、神仏に祈り、願う人も多いかと思いますが、昨年9月の台風15号や10月の台風19号・21号による被害は、東海・関東・東北で近年経験したことのない甚大なものになりました。長時間に亘り、想像を超える降雨量があり、また強風や竜巻の影響で送電線の塔が倒れたり、家屋の屋根が飛ばされる地域もありました。70以上の河川で140カ所に迫る堤防の決壊や越水、田畑の冠水で農作物の被害、農業用ハウスや農地の損壊、土砂崩れによる林業関係の被害、漁港の施設損壊など水産関係等の被害。38都府県での農水産被害は11月末の時点で三千億を超えており、更に被害額は増えて

います。

広辞苑「異常気象」の項目には、へまれに発生する現象。多くは災害を伴う。気温・降水量などが過去30年以上にわたって観測されなかったほとんどの値を示す場合、また、集中豪雨・竜巻などの突発的現象や同じ気象が農作物などに被害がでるほど長期間続く場合について、～と記してあります。異常気象で思い出したのは、「気象サミット」における、グレタ・トゥーンベリさんの温暖化対策を取らない各国首脳らへの怒りの演説です。「人々が苦しみ、死んでいる。生態系全体が破壊され、絶滅の始まりに直面している。それなのに、あなたたちはお金や経済成長という話ばかり、私はあなたたちを許さない……」と16歳の女の子が切々と窮状を訴える姿は印象強く残っています。

昨年の熱中症で緊急搬送された人数は過去最高を更新し、消防庁

によれば、8月の搬送車のうち死亡者は78人とのことでした。過去10年の統計では、農作業中の熱中症で倒れる人が増加しており、年齢別では、65歳以上が半数以上で、次いで18～59歳。発生場所でも多かったのは住居で、半数近くの43%でした。

今年令和2年の7月には、秩父市農業委員会の農業委員と農地利用最適化推進委員の任期が満了になります。平成29年7月からの今期農業委員会においては、関係者各位のご指導ご鞭撻を賜り、感謝と御礼を申し上げます。

平成30年2月より、一般社団法人埼玉県農業会議の常設審議委員会に、6月の通常総会にて、理事を拝命して現在に至っております。

埼玉県農業会議では、会議員(62人)と農業連合会、農業の改良発達を目的とする団体の理事等、県農業共済連の理事、学識経験者(14人)内で、常任会議員の26人が任命されて、毎月「常設審議委員会」を開き、「法令業務」と

「任意業務」の申請や内容が適正で、許可がやむを得ないものであるかどうかを審査し、答申を行って

ます。

そこでは昨年の10月に、令和2年度県農地利用最適化推進施策に関する政策提案・意見を埼玉県へ提出しました。本提案では、県内62農業委員会などからの要請内容を、常設審議委員会での審議を経て取りまとめたもので、県施策に反映していただくべく、農業委員会における農地利用最適化推進活動への支援、農地利用集積・集約化の加速化、鳥獣被害対策の強化など、21の内容について意見を要請しました。

秩父市農業委員会主催の「農業に関する図画・作文コンクール」は、秩父市の合併以来、昨年は第15回目の開催となりましたが、近年においては毎年130～150点の応募をいただいております。優秀な作品が多く、審査においては大変苦慮しておりますが、図画・作文ともに最優秀賞、優秀賞、優良賞を慎重に選ばせていただき、表彰式を行いました。

農業に関する諸問題で、不耕作地解消や後継者の育成、農業確立など、皆様のご指導ご鞭撻賜りますようお願いいたします。

図画の部 入賞者名
(敬称略)



【応募作品 55点・入賞作品 11点】

賞 別	学年	学 校 名	氏 名	題 名
最優秀賞	3年	花の木小学校	山口 花歩	二人でとったトウモロコシ
優秀賞	3年	吉田小学校	新井 鈴雅	うしと友だち
優秀賞	4年	大田小学校	木本 優輝	きゅうりの収穫
優良賞	1年	花の木小学校	黒澤 優芽	なつやすみのいもほり
優良賞	1年	影森小学校	山中 朋樹	はたけのえ
優良賞	1年	吉田小学校	彦久保 新	しいちゃんちでとれたきゅうり
優良賞	2年	花の木小学校	田端 陸	田うえをしたよ
優良賞	2年	大田小学校	新井 望亜	おかいこ
優良賞	3年	原谷小学校	新井 空和	トマトのぶよひめ
優良賞	6年	高篠小学校	黒澤 心愛	おばあちゃんのキュウリ今年も大成功
特別賞	3年	花の木小学校	山口 和花	いっぱいとれたよ！

作文の部 入賞者名
(敬称略)



【応募作品 87点・入賞作品 11点】

賞 別	学年	学 校 名	氏 名	題 名
最優秀賞	4年	原谷小学校	高林さくら	さっちゃんの笑顔
優秀賞	4年	秩父第一小学校	渡邊 りな	心のこもった野菜
優秀賞	6年	尾田蒔小学校	島崎瑛里亜	農業の大変さを知って
優良賞	1年	秩父第一小学校	飯塚 唯	のうぎょう
優良賞	2年	尾田蒔小学校	島崎 飛空	あまかったトウモロコシ
優良賞	4年	秩父第一小学校	西 大翔	農業について
優良賞	4年	大田小学校	富田 省弥	麦はすごい
優良賞	5年	秩父第一小学校	山野 凜音	野菜を育てたよ
優良賞	5年	花の木小学校	松本 璃子	おじいちゃんのなす畑
優良賞	5年	大田小学校	若林 恭佑	おいしいちゃんの野菜がおいしいわけ
特別賞	6年	秩父第一小学校	清水 愛心	農業について

第15回
図画・作文コンクール
農業に関する
審査結果

※各部門入賞作品数
最優秀賞各1点 優良賞各7点
優秀賞 各2点
J Aちちぶ特別賞 各1点
※優秀賞・優良賞の中の並び順は、
学年順です。

コンクール講評

秩父市農業委員会振興部会

副部会長 富田 和雄

今年度も「農業に関する図画・作文コンクール」に図画の部55点、作文の部87点と多くの作品の応募をいただきました。

入賞された図画・作文各11作品の表彰式を10月23日に歴史文化伝承館で行いました。

どの作品も、子どもたちが実際に見たことや、一緒に農作業しておいしい野菜を作るために苦労したり、できたときの喜びや家族との絆など、体験を通して感じたことや考えたことを子どもの視点で図画や作文で表現した作品が多くありました。近年農業従事者の高齢化等により荒廃農地が多くなってきたこと等です。

子どもさんが小さい頃から農業に興味を持っていたことによつて、次世代の担い手になっていただけるのではないかと思います。

来年度も多くの作品の応募をお待ちしています。



作文
最優秀賞

「さつちちゃんの笑顔」



原谷小学校4年
たかばやし
高林さくらさん

今年もこの季節がやってきた。八月十一日。わたしは、早おきをした。するとさつちちゃんも、「さつちちゃんも行く！」とおきてきた。さつちちゃんとは、わたしの妹だ。今日は楽しみにしていた、きゅうりの苗植えに行く日だ。わたしと妹は長ぐつをはき、急いで吉田へと向かった。今日の天気はくもり。暑い日はハウスの中の温度が四十度をこえる事、たくさん苗、いっぱいいた汗、植え終わった時のうれしかった気持ち。一年前の事が昨日のことのように思い出された。ハウスが見えてきた。わたしは思わず声をあげた。

「なつかしい。」

今年はテニスの友達もいっしょに苗植えができる。きゅうり農家のいさおさんやなおこさん、そしておじいちゃんたちも笑顔で待っていてくれた。苗植えが始まると、

「去年もやっているからなれているね！」

上手だね！」とほめられもつとがんばりたいと思った。
「さつちちゃんにも教えて！」

と妹に言われたので、くきの下の方をやさしく持つことや穴があいている場所にそつと置き土をやさしくかぶせることなどを教えた。さつちちゃんはとても上手に出来た。

「ねえね、楽しいね！」とさつちちゃんは楽しそうに言った。汗もたくさんかいたので、みんなで休けいした。一口目の麦茶の味はいつもより、何倍もおいしく感じた。千三百本の苗は二時間くらいで植え終わった。いつもならこんなに早く終わらないことを聞いた。また人数も、二、三人でやっているそうだった。それを聞き、農業の仕事の大変さを知った。きゅうりをしゅうかくするまでにはからさないように水やりや手入れをしなければならぬ。その仕事は休まず毎日つづく。わたしには出来ないしすごいなと思った。

最後にもう育てているきゅうりをしゅうかくさせてもらった。さつちちゃんもはさみを持ってきゅうりをチョキンと切った。「さつちちゃんも出来た！」とうれしそうに笑った。すると周りのみんなも笑顔になった。農家の仕事は大変だけれど、妹の笑顔を見ていたらおいしい物を作つてそれをみんなが食べて幸せになる仕事だと思った。

おじいちゃん、いさおさん、なおこさん、また来年もさつちちゃんやみんなと手伝いに来ます。待つてね。

作文
優秀賞

「心のこもった野菜」



秩父第一小学校4年
わたなべ
渡邊りなさん

「わ、大きなキュウリが二本もできて。」わたしは、そのキュウリをどうやって食べようかと、しゅうかくしながら考えていました。

毎年、家の小さな畑で、おばあちゃんが、わたしのためになえを買って野菜を育てさせてくれています。キュウリ、トマト、インゲンにトウガラシ。色も形もさまざまですが、自分で育てた野菜はどれもおいしく、わたしの楽しみです。

しかし、ナスだけは、上手に育てることができません。花はさき、実をつけるのですが、大きくは、ならず、かたくて、とても食べられる物では、ありません。

こんな時、お店で売られているナスを見ると、

「農家の人たちはほんとうにすごいな。」と、思います。

お店のナスは、色もきれいで形もいい。売るほどの量を作るには、どれほどたい

へんなことでしょう。

農家の人たちは、わたしの小さな家庭菜園とちがって、寒い冬のうちから、土をほりおこし、ひりょうをまいたりして、広い畑に、野菜が、おいしく育つように、たくさんさんのじゅんぴが必要なのだと、おばあちゃんが教えてくれました。

「とても大変な作業だよ。」

そして、

「草むしりに水やり、毎日手入れをして、お店でその野菜を買ったわたしたちに、安心しておいしく食べてもらえるように、たくさんさんの思いがこめられているんだから。」

と話してくれました。

理科のじゅめ業で、植物が成長するには、太陽の光と水がとても大事だと習いました。天気によって、植物が、上手に育たなかったりと、毎日の管理は、本当に大切なのだと思います。

わたしが、自分で育てたキュウリやトマトをしゅうかくするたびに、

「やったー！！」

「うれしい。」

と感じる様に、農家の人たちも同じ気持ちなのかなあ。

「それなら、おいしく食べない。」

わたしは、これから家での食事やきゅう食では、農家の人たちが、心をこめて作ってくれた野菜にかんしやししながら食べるようにしないといけないなと思いました。

作文 優秀賞

「農業の大変さを知って」



尾田蔭小学校6年
しまさき えりあ さん
島寄瑛里亜 さん

私は、昨年トマト作りをした経験をいかして、今年は大好きなオクラを作ってみようと思いました。

やはり一人では出来ないで、おじいちゃんに手伝ってもらいながらやりました。

まず、種の準備をしました。オクラの種皮は硬いので、一昼夜水につけました。ういた種は捨て、水けを切り、準備は終わりです。

種まきは、5月上旬ゆんにやりました。

おいしいオクラが出来ますようにと思いながら、一か所に4、5粒まき、1センチメートルの厚さに土をかけました。種を早くまきすぎると、低温で芽が出ないで、くさったり、初期の生育が悪くなったりするとおじいちゃんから聞いて、種をまくのも、きちんと考えながらやらなはいといけないのだと思いました。

間引きやしきわらも、おじいちゃんの

家に行った時に、一緒にやりました。今までは、おじいちゃんがやっているところは見たことがあったけど、実際やってみると難しかったし、大変でした。おじいちゃんは、他にもスイカ、メロン、ブルーベリー、トウモロコシ、キュウリ、ジャガイモ、大根など一年中色々な野菜を作っているの、毎日畑に行つて世話をしているのですが、本当に大変なんだと実感しました。

オクラが段々と成長し、やつと花がさきました。オクラの花は初めて見たけど、黄色ですごくきれいでした。自分で野菜作りをしてみないと、花を見ることが出来ないの、すごくよい体験ができました。

開花後10日後位で、やつとオクラが出来ました。ハサミで根元をそつと切り収穫しました。収穫したオクラは、表面のうぶ毛を塩でこすりながら取つて、ゆでて食べました。自分で育てたオクラは、やつぱり新鮮だし、すごくおいしかったです。一緒に食べていたおじいちゃんや妹からも、

「すごくおいしいオクラが出来たね。」と言われて、野菜を作つてよかったと思いました。

今年は、昨年よりも梅雨が長かったり、気温が低くて、野菜の成長が遅くなったたりして、収穫出来るまでに時間がかかりました。農業をやっている人は、天気によつてすごくえいきょうするんだなと思いました。テレビで、台風などによつて、

収穫前の野菜がだめになつて、収穫出来なくなつてしまつたというニュースを見ると、悲しい気持ちになります。

もし、自分が一生けん命育てた野菜が、食べられなくなるなんて、すごくやしいと思います。それでも、農業をやっている人は、おいしい野菜をみんなに届けるために、がんばつてくれているんだなと思いました。

スーパーにも沢山の野菜や果物が並んでいます。ふ通のことじゃなく、農業をやつてくれている人がいるから私達は毎日、おいしい物が食べられるんだなと思いました。

まだ、2回目ですが、野菜作りをしてみ、農業の大変さも少し知ることが出来ました。食事の時には、感じやの気持ちをこめて、「いただきます。」と言いたいと思います。また、おじいちゃんの野菜作りもしたいです。

図画 優秀賞

「きゅうりの収穫」



大田小学校4年
きもと ゆうき 優輝 さん
木本 優輝 さん



図画 優秀賞

「うしと友だち」



吉田小学校3年
あら い れいが 新井 玲雅 さん



農地利用意向調査に

ご協力ください！

令和元年度農地利用状況調査の結果を踏まえ、今年度におきましても、新たに遊休農地化していると判断された土地の所有者に対して、農地利用意向調査を実施します。通知の届いた方につきましては、「自ら耕作している」、「貸したい意向がある」等の選択肢の中から、現時点での農地の利用意向について最も近いものをご回答ください。

なお、本調査は貸付け希望の農地の把握や非農地判断の参考等、農地の利用の最適化の推進を目的に農業委員会が実施するものであり、課税調査等とは関係がありませんので、あらかじめご承知おきください。

問い合わせ

農業委員会事務局

☎(25) 5231

吉田総合支所地域振興課

☎(72) 6083

大滝総合支所地域振興課

☎(55) 0862

荒川総合支所地域振興課

☎(54) 2114

「人・農地プラン」の実質化を

推進しています

「人・農地プラン」は、地域が抱える人と農地の問題を解決するために作られる計画で、地域や集落における話し合いによって、今後の中心となる農業者（個人や法人等）の明確化やその中心となる農業者にどのようなように農地を集約していくかなどを決める制度です。

この制度が始まって5年が経過するにあたり、国は、令和元年5月に農地中間管理事業の推進に関する法律を改正し、プランの実質化を進めることになりました。

今までの秩父市の「人・農地プラン」は、市内全域をカバーする1つのプランとして作成し、国から義務付けられた毎年の見直し作業を行ってきましたが、今回の実質化ではプランの作成範囲を「集落単位」にすることや、毎年の見直しは行わず5～10年後を見据えた強固なプランを作成することになりました。

具体的な作業は、「アンケートの実施」、「地域の状況の地図化」、「地域の徹底した話し合い」、「プラン策定検討会（とりまとめ）」の4

つのステップを行います。

国は市に、この4つのステップのスケジュール（工程表）の公表を求め、市は市内の担い手の状況等を参考に、地区（集落）ごとの実質化に向けた工程表を市ホームページ上で公表しました。

この工程表に則って、来年3月末を目途に、アンケート調査や地域の話し合いを各地区で実施しますので、皆さまのご協力と参加をお願いします。

区 分	地 区 名
既に実質化している地区	大田、市場広瀬、兎田暮坪
令和2年3月末までに実質化予定地区	小柱、釜の上
令和3年3月末までに実質化予定地区	蒔田（下蒔田を除く）、田村、下黒谷、影森4区、布里田中、上田野、日野、小野原、白久、費川
今後取組を検討する地区	寺尾、下蒔田、大野原

※地区名欄に記載がない地区については、地域の状況に応じてプランの作成を検討します。

問い合わせ

農政課 ☎(25) 5210

2020年農林業センサスに

ご協力をお願いします

令和2年2月1日現在で、すべての農林業関係者を対象に農林業の統計調査を実施します。

この調査は、今後の農林業の政策に役立てるために5年ごとに実施される大切な調査です。

1月中旬以降、調査員が訪問し聞き取り調査を実施します。また、一定規模以上の営農活動を行っている場合には、調査票を配布し、その後回収に伺います。

調査票に記入された事項については、統計以外の目的には使用されませんので、ご協力をお願いいたします。

問い合わせ 情報政策課

☎(22) 2204



朝の光

農業委員 豊田 恵男（蒔田）

朝の光が、夜露に濡れた稲穂を照らし黄金に輝く瞬間に、今年も豊作かと、今までに頑張つて育てた日々が報われたと感じる時——
豊作に雀たちにもおすそ分け

昔、海だった秩父。やがて海底は地殻変動が起き、秩父の山々を海から引き離し、できたのが、秩父盆地。私が住んでいる蒔田地区は山が多い中でも、比較的田んぼが多いところ。山間部のわずかな平地の米どころは大事な穀蔵地帯であり、それというのも田村地区にある蒔田川の源流からの水量、堰を作り、水路をひらき、蒔田の第十一代内田惣右エ門さんが自分の田畑を潰して水溜をつくつて、水田の開発に努められ、今日の蒔田の田んぼ稲作が続いてきました。しかし、用水といえど蒔田川、天水、ため池に依存し水路も土水路で、一度豪雨にみまわれると田畑も冠水の被害をうけて農作業にも支障を与えてきました。

の話が地主達から持ち上がり、平成元年、田畑107ヘクタール、事業費12億円余、13ヶ年の歳月をかけて30アール一区画標準とし、用水管理の省力化、水利利用の合理化でパイプライン化、暗渠排水により田畑の換耕作が可能に。農地発展と安定が確保されました。しかし、令和元年、完成から18年見渡せば、農業人口の高齢化に伴い遊休農地が点在し、現地調査に行つても草刈りをし管理してあれば良い方、荒れ放題の土地が多い現状です。どこから手を付けてよいか。本人も高齢、後継者問題あり。太陽光、これも解決策かもしれない。私も自身も地主さんに頼まれて稲作の手伝いを2haしていますが、一人での農業には限界があります。尾田蒔田営農が発足し、減反政策の一環として3年周期で休耕してもらい、農地を借り受けて小麦・大豆を作付け運営してきました。政策も終了になり、耕作できる人は耕作を。そんな風が吹く中。営農が農地を確保し、遊休農地を活性化し、後継者たちが明日の農業に目を向けてくれる、農業基盤を作つて行く課題。再び農地に朝の光が当たることを願います。

耕地の話

農地利用最適化推進委員 小久保健司（定峰）

私は、秩父市農地利用最適化推進委員の一員です。任命を受けて早くも2年が過ぎました。

主な仕事は、農地法に係る農地転用許可申請の審議・農地利用状況調査、人・農地プランで地元の農家の人達との話し合いです。

秩父は、他の地域と比較すると自然災害が少なく住み良いという声が多く聞かれます。又テレビの影響もあり、休日になると、秩父路では、多くの軽装の旅人が、山・川・観光農園などで楽しむ姿を見かけます。

秩父の農地は、山間地、斜地、狭い土地のため耕作には困難を要する土地が多いです。目につくのは、高齢化と後継者不足による荒廃農地の多さです。

私が就任以来特に力を注いでいる事業は、野生動物といかに共存出来るかです。人・農地プランに参加して状況を聞くと、農作物を作る以上に野生動物をいかに対処するかという議論で終わることが多いのが現状です。高篠地域では、県市の指導の下で電気柵の設置や猿の追い払い、発信器の装着で効

果を上げています。

今後は狩猟免許（ワナ類）を有効利用して、今まで以上に地域の人に迷惑をかけないように貢献できればと思います。

最後になりますが、自然災害の被災にあわれた方々には、心からお見舞い申し上げます。

農業者年金で安心・豊かな老後を
～農業者の老後は
国民年金だけでは不安です～

◎農業に従事する方の老後の安心に役立ちます。

国民年金 + 農業者年金

◎こんな方が加入できます。

①国民年金第1号被保険者

②年間60日以上農業に従事

③20歳以上60歳未満の方

◎積立方式だから自分が掛けた年額は年金として生涯もらえます。

◎保険料は月々2万円から。金額はいつでも変更できます。

◎支払った保険料は全額社会保険料控除となり、所得税や住民税等の節税になります。

◎政策支援（保険料の国庫補助）が受けられます。

※お申し込みはお近くのJAまで

農と詠む

関口 良子(註)

稲を刈る遠き瀬音に急かされつ
(上野町) 関口 良子

園児の田案山子も園児服を着て
(熊木町) 前原元一郎

大根蒔く山門前の斜面畑
(高篠) 荒船 梅子

落人の裔の山畑蕎麦の花
(中村町) 釜 きくえ

山の田の案山子に雀群れて来し
(高篠) 村田 軍司

農の手をひと日舞台に村芝居
(小柱) 設楽 喜麻

稲架を組む背に武甲山背負ひ
(上野町) 小林 敏子

どの子にも青い空あり稲を刈る
(大野原) (坂本) 公平

隠元の支柱立て替へ野分晴
(高篠) 強谷 幸雄

色のよきトマト揃ひし農日記
(荒川) 逸見 壽江

知々夫の夜ばなし
『町と市』

荒川歴史懇話会 新井 充

町立

徳川家康の関東入封以降、代官によって在郷の村々の街道上の要地に町がつくられた。町場は、街道の左右を短冊状に縄張りし、家並みが形成された。そして、周辺の地持層が招かれ、町の運営の中心となった。

町の多くは、市場であり、馬継場であり、宿場であった。

町並は街道の左右に軒を連ねて一列の場合が多く、長さは長短様々であった。町並は、現在でも「町」

「町分」「宿」等々と呼ばれている。郡内の在郷町の町並は以下の通りである。

(※一町は凡そ百九m)

〈大宮郷〉 長九町半 道幅六間

〈上小鹿野村〉 長四町

〈下吉田村〉 民家 八十軒

〈大野原村〉 民家 六十五軒(本村)

民家 二十四軒(宮崎)

〈本野上村〉 長三町 民家六十軒

〈安戸村〉 長四町 道幅七尺

民家 六十軒

〈豊川村〉 長二町 民家三十六軒
〈坂石村〉 長三町 民家二十九軒

市立

町は、周辺集落の産物の集散地であり、常設の店舗が少なかった江戸前中期頃は、特産物や日用品等を売買するために定期的に市が立った。市の開催は、六斎市(月に六度)か大市(年に数度)のばあいが多かった。

六斎市

盆地内の市は、一・六日(大宮)、二・七日(豊川)、三・八日(下吉田)、四・九日(大野原)、五・十日(上小鹿野)で、それぞれ月に六度ずつ市が立った。ひと月の内、五か所のどこかで市が立っていた。

交易品

秩父盆地内の村落では、年貢は貨幣で納めていた為、百姓は産物を市で換金する必要があった。市の主な交易品は、穀物・炭・薪・四十物(塩漬の魚)・塩・たばこ・絹・太物・果物・草鞋等であった。

見世(店)

売買される品は、往来(仲見世)・庭(前見世)・軒下・縁側・座敷等に、筵や見世棚等に置かれた。

荒川豊川町分区には、かつての市庭の形態が比較的よく残されている。

編集後記

加藤 勝市

「農政ちちぶ」第39号をお届けいたします。皆様には、新元号「令和」のもと、新しい年を迎えられましたことと拝察いたします。引き続き目を通していただきますようお願いいたします。

さて、本号は、農業委員会が主催しました、小学生の作品募集の紹介、お知らせ、委員さんの声、文芸等で紙面づくりをいたしました。多くの皆様にご協力いただいたことに御礼申し上げます。

過日の新聞記事で「エネルギー換算」国内食料生産は、年々減少しており目標を大きく下回り三十数%と危機的状況だと伝えられました。

こうした事も一因と思われますが、「人・農地プラン」の実質化が早急に求められており、秩父市でも順次取り組みが始まります。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

「農政ちちぶ」が、皆様に少しでもお役に立てばと願っています。

秩父市農業委員会広報部会

部長 加藤 勝市
副部長 新田 恭一
委員 高橋 信之
委員 黒澤 元国